学校番号 C2101　桃谷（通）　　令和2年度 公民科

科目名 ：	社会入門	単位数 ： 2 単位	必要スクーリング出席回数： 2 回
使用教科書 ：：なし			
学習書 ・副読本 ：：高校社会へのステップ （東京書籍）			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	6 枚	2 枚	2 枚	2 枚
スクーリング [S]	8 回	3 回	3 回	2 回
テスト [T]	1 回	×	×	○
その他 （課題・実習等）	試験の点数が低い場合、課題が課されることがあります。			

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

この科目では社会の重要な事柄を基礎から学びます。レポートは学習書・副読本の内容から特に重要なところを出題します。学習書・副読本はワークブックになっているので、まずは自力でやってみて、分からないところは答えを見て、埋めていきましょう。その上でレポートに取り組みましょう。スクーリングではレポートで扱う内容について理解できるように講義を行います。必要スクーリング出席回数は２回です。また、３範囲に行なわれるテストはレポートから出題されます。成績はレポート、スクーリング、テストから総合的に評価します。
学習を進める上でわからないところや困ったことがあれば、担当者まで相談に来てください。

2 学習の到達目標

①学習を通して社会の様々な事柄への興味関心を高め、それらを学ぶ意義に気づくことができる。
②社会の基本的な事柄を知り、平和で民主的な社会の形成者としての自覚をもって考える態度を身につける。
③社会の基本的な事柄について考察し、自分の考えを適切に表現できる。
④社会の基本的な事柄についての諸資料を効果的に学習の探求に活用することができる。
⑤社会の基本的な事柄についての知識を身につけ、それらを相互に関連付けながら理解できる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：思考・判断・表現	c ：資料活用の技能	d ：知識・理解
観点の趣旨	・学習を通して社会の様々な事柄への興味関心を高め、それらを学ぶ意義に気づくことができる。 ・社会の基本的な事柄を知り、平和で民主的な社会の形成者としての自覚をもって考える態度を身につける。	・社会の基本的な事柄について考察し、自分の考えを適切に表現できる。	・社会の基本的な事柄についての諸資料を効果的に学習の探求に活用することができる。	・地理、歴史、政治・経済について学び、社会の基本的な事柄についての知識を身につけ、それらを相互に関連付けながら理解できる。
評価方法	・記述の点検（レポート） ・観察（スクーリング）	・記述の確認及び分析（レポート）	・記述の確認及び分析（レポート）	・記述の確認及び分析（レポート） ・定期試験

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1範囲	地理的分野	・地球のすがた ・世界と日本のすがた ・世界と日本の地形・気候 ・世界の人口・資源 ・世界の自然環境と都市・国々	○	○	○	○ ○ ○ ○	a：地理の基本的な事柄を学ぶ意義について考え、それらについて関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b：地理の基本的な事柄について考察し、適切に表現できる。 c：地理の基本的な事柄についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：世界と日本の地理の基本的な事柄について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング
2範囲	歴史的分野	・時代の区分 ・世界の文明 ・縄文時代～安土桃山時代 ・江戸時代～現在	○	○	○	○ ○ ○ ○	a：歴史の基本的な事柄を学ぶ意義について考え、それらについて関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b：歴史の基本的な事柄について考察し、適切に表現できる。 c：歴史の基本的な事柄についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：日本を中心とした歴史の基本的な事柄について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング
3範囲	公民的分野	・わたしたちと日本国憲法 ・わたしたちと政治・経済 ・わたしたちと国際社会 ・わたしたちと現代社会	○ ○	○	○	○ ○ ○ ○	a：政治・経済の基本的な事柄を学ぶ意義について考え、それらについて関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b：政治・経済の基本的な事柄について考察し、適切に表現できる。 c：政治・経済の基本的な事柄についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：政治・経済の基本的な事柄について理解し、知識が身についている。	・レポート ・スクーリング ・定期考査

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。